

モデル事業名	地域資源再活用型地域連携事業
活動団体名	玖珠町商工会
ホームページ	<a href="http://www.kusu-shokokai.jp/">http://www.kusu-shokokai.jp/</a>
所属/ 担当者名	事務局長 日隈一秀
連絡先	0973-72-1211
活動地域	大分県玖珠郡玖珠町森地区

### ● 活動地域の概要

人口：1,807名、高齢化率：34.7%、

47自治区のうち3自治区（集落）では無人となる可能性がある。

対象地域は江戸時代より続く城下町で近年まで玖珠町の政治・経済の中心部でした。昭和7年国鉄久大線開通後より急激に衰退が始まり、国道210号線、高速道の開通後は更に衰退した。現在は玖珠町により街並み整備事業を実施して、活力を生み出す諸施策を実施中であります。地区内は外環をバイパスが通り、交通の利便性は良い。また歴史と文化が色濃く残り、周辺には自然が豊かに残されている。農業を中心とした産業構造であり、静かな佇まいのある町である。



【位置図】



【森地区の町並み】



【これまでのボランティア活動】

テーマ「日本一小さな城下町づくり」を推進する中、地域のネットワークと新たな地域コミュニティの構築が大切である。本事業を通じて住民参加型の意識改革を行い、日常活動に根ざした地域環境整備と、人と人との情報交換の場づくりを実施する。

### ● 活動地域の課題

地域が高齢化し、歴史や伝統文化を継承出来ない中、地域住民によるボランティア活動を活性化する為に既存の組織に縛られずに活動する新たなコミュニティの構築を行う。その為にも、子供たちを活用した学習や親子の繋がりを利用したボランティア対策を実施し、地域の高齢者を利用した地域づくりを行う。急速に進む、城下町の無人家及び廃屋は後継者が帰郷する意思がなく、解体へと連なり、更なる過疎となる。周辺観光地の客数が大幅に増加する中、当地では数十年来変化がない。交流人口を増加させる事は将来必ず、町づくりと人づくりに繋がり大きなインパクトとなり地域活性化へととなる。

### ● 活動の内容

（全体）

地域資源の整備について

- ①城下町の歴史的史実の紹介や案内板の整備。その為にも情報のQRコード添付による情報提供を行う。更に、地域ボランティアの育成強化による地域内人的資源の活用。
- ②三島公園や末廣神社、つのむれ城址、清水瀑園（豊の国名水百選）等のアクセス整備。ウォーキングコースの設定等、条件整備を行う。

城下町再生について

- ①地域住民のネットワークづくりによる地域イベントの活用（日本童話祭、祇園祭、盆踊り）及び新イベントの実施
- ②町並み整備事業に対応した地域経済活動・文化活動をサポートし、城下町内空き店舗活用による文化行事の実施。来街者の増加による賑わいづくりを行いこれまでの各行事の動員数倍増による活性化を目指す。

## (直近1年間の進捗など)

### 地域資源の整備について

- ① 歴史の紹介についてQRコードの活用は観光客に利用されている。その影響で玖珠町観光協会が案内板の設置・観光パンフレットの整備、インターネットの整備等行政と共に積極的展開を行うことが出来た。
- ② ボランティア活動と本事業を通じた活動により、当初計画での初期目的が達成できた。

### 城下町再生について

- ① 地域の協力体制が行政と一体となり着実に推進が出来た。新たなイベントは1年間を通じた賑わいづくりとして徐々に定着が出来ると期待している。
- ② 住民意識と商工会組織の活動による地域行事が活性化出来たことは今後楽しみである。特に青年・女性の力を活用することが出来今後の活力を期待したい。

## ● 活動の成果

### ・全体

地域資源の活用について、地域内の各組織・団体がそれぞれの立場で大なり小なり活動が出来たことは本事業の2年間にわたり実施した成果と思われる。過疎化し高齢化する集落の中、地域を守りゆるやかに急がず活動する人々の心の絆は着実に醸成できたと考えられる。日常生活の中、清掃奉仕作業や花いっぱい取り組み、日出町豊岡地区の子供会交流会の開催、各種イベントの継続、祭典行事の支援、公民館の文化行事に対する参加、地域内各種団体との交流会の実施等地域内の人々の交流が徐々に戻りつつある中、1年を通じて地域づくりの輪が出来たことは大きな成果である。

### ・直近1年間の成果など

周辺の自然と歴史遺産の活用について、自治会と商工会並びに各種団体を中心にそれぞれの立場を生かした運動が出来つつある。周辺の里山は荒廃が進む中、竹林伐採を行い広葉樹林化の手立てを行い、竹を活用した「森町竹灯り」を開催した。ウォーキング協会を設立し、つのもれ城址周辺のウォーキング大会を2回開催し町内外から多くの参加を頂き成果を上げている。城下町の中では、民家や空き店舗を活用した、春は約1ヵ月間の「森まち童ひなまつり」を開催し、町内の保育園・幼稚園の子供たちに声をかけ通りに40か所以上の飾り付けが出来多くの観光客が見学に訪れている。秋は街並み美術館を開催し、地域の協力による各種催しを行っている。

## ● 今後の課題及び展望

### ・課題

1. 地区内の住民に対する協力組織づくり…地区公民館活動活性化と自治会組織の活用
2. 地域外応援団づくり…東京・大阪・福岡等地元出身者に対する情報提供による活動支援と協力体制づくり
3. 行政との連絡体制による情報共有づくり…地域が抱える公共的ハード整備等の協力体制作り

### ・展望

豊かな資源を活用するための人材の育成と組織化は大変重要である。城下町の再生するうえでの産業の育成と自然を活用するうえでの里山整備は多くの人的資源の投入と資金が必要である。今後、時間と費用をかけて行うことが必要である。地域の状況は年々厳しい状況である。

## ● その他(自由記述)